

魔法少女録

むか～しむかし、ここは誰もが夢見る魔法の国でした。でも、現代ではおとぎ話を信じる大人はいないし、誰も魔法を使えません。ある日、私たちはとびっきり不思議な女の子に出会います。女の子は魔法が使えると言いました。最初は驚いたけど、私たちは女の子を信じることにしました。そうして信じることで私たちも魔法が使えるようになったのです！けれど、これは秘密の魔法です。周りのみんなには内緒にしましょう。

〔アスペクト生成質問〕

- 私たちの魔法。私たちには一つだけ使える魔法があります。それはどんな魔法ですか？
- 信じるもの。私たちが魔法を信じた理由はなんですか？
- [自由アスペクト]。好きに決めてください。

〔共同体への質問〕

- 女の子は突然現れました、いったいどこから来ましたか？
- 私たちには怖いものがあります。その怖いものはなんですか？
- 私たちは魔法以外にも共通点があります。それはなんですか？
- 私たちがよく使う溜まり場はどんなところですか？
- 魔法を使えるタイムリミットがあるようです。その期限はいつまでですか？

名前

いちご、うさぎ、さき、ささみ、さくら、しゃお、どれみ、なぎさ、ほのか、ばい、まどか、まみ、もも、ゆう、ゆうな、ゆめ、ようこ、れいん

〔時代の移行〕

〔時代〕2へ移るにあたって〔展開〕を（黒い左欄か、赤い右欄か）選ぶ。以降は、選んだ方の〔展開〕が続く。

〔時代〕2へと移る。〔アイソレーション〕の終わりを予感させる出来事。それはあらゆる会話の中に潜んでおり、無視などできない。

私たちは魔法が使えるようになったことに喜びました。しかし、時間が経つうちに仲間の一人の魔法が弱まりました。仲間を励まし、対策を案じるものはいいますか？ それとも仕方がないと諦めますか？

私たちの仲間のうち、誰かの心に黒い感情が、芽生えました。それは一体誰ですか？

また、仲間の心情を察知し、ケアしようとする人はいますか？ それとも気づかずに、放置してしまいますか？

〔時代〕3へと移る。予期されていたことが起きてしまう。

〔アイソレーション〕の終わりは近い。この定めからは逃れられない。

最初は一人の魔法が弱くなっていましたが、次第に私たちみんな、魔法の力が弱まっています。それでも私たちは自分の使命を果たそうとします。

仲間の魔法は穢れを溜めて増していきます。

夢と希望を胸にしていた私たちは、現実を突きつけられます。これは、努力や絆で、耐えられる現実ではありません。夢も希望も、ここにはないことに気づいてしまったのです。

魔法が使えるタイムリミットまで、あと一つ、私たちが魔法を使うのはどんなことですか？

〔遺されゆくもの〕へと移る。最後の瞬間、またはその結果。

私たちは最後の魔法を使い終わりました。魔法は使えなくなり、そこには普通の人がいるだけです。

私たちの夢と希望と共に、魔法は消え、かつて仲間だったそれは悪夢として、存在することになってしまいました。

私たちは立ち尽くしているのか、夢を見続けているのか。私たちはその時、何かを見たかもしれません。

架呼
本文

鮎方高明
編集

架呼
イラスト

このバックドロップは、ロールプレイング・ゲーム『ダイアレクト』(Thorny Games)のアクセサリです。
『ダイアレクト』について興味がある方は、harrowhill.rdy.jpをご参照ください。

遊ぶにあたって、このバックドロップは自由にコピーしていただいて構いません。またクリエイティブ・コ
モンズ「表示-非営利-継承」ライセンス範囲内で自由にご利用いただけます。

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/deed.ja>

This backdrop and the illustration are copyright 2022 by Kako, twitter id:
ikakako_poi. *Dialect* is copyright 2017 by Thorny Games, LLC. All rights
are reserved. Japanese translation published by arrangement with Thorny
Games Publication. © 2020 by Harrow Hill.

